

カレー食べてお喋り交流

岡田洋子（国際21期・6次参加）

現地に着いて、崩壊した建物、仮設住宅、復興住宅、行き交うダンプカー、かさ上げされた土地、あちこちに慰霊碑を見ました。

東六郷小学校では、紙鉄砲、紙飛行機で大いに楽しみ、子供たちの喜ぶ姿を見て、うれしかったです。女川町の復興住宅の集会所では、メンバーの三味線で、民謡、懐かしい歌を歌いました。手品、南京玉すだれ、



白波五人男のパフォーマンスには「待ってました」の声もかかり、盛り上がりました。また、いつもは子供達にしてもらおう”ブンブンごま”をを大人にしてもらったところ、なかなかうまく回りません。「老化防止になるわ」と皆さん懸命に練習してびゅんびゅん回るまでになりました。調理室では婦人部といっしょにカレーを作り、昼食を共にして親しくおしゃべりができました。午後からはディスコン大会。楽しく競い合って、応援合戦もにぎやかでした。

次の日、同じく女川町の復興住宅集会所で自治会役員の方々と懇談会。復興住宅に入るのも抽選で、近くには、仮設住宅の生活を余儀なくされている方も多く、複雑な気持ちにさせられました。お茶を飲みながらの会合でしたが、女性達も役に立ちたいと婦人部が出来、老人クラブも出来て、音楽、体操等の講座も動き出していることがわかりました。

ご自分の家族を捜すために震災直後に地元の方が撮影されたDVD、阪神淡路大震災のDVDも上映しました。女川の方々からは、避難した高台から見ていると、自宅が見る間に消えて行ったことや、息子さんの所に行っていたけど、やはりここが良いと戻って来た婦人の体験などが披露されました。町の将来像などについては、十分な意見交換ができませんでしたが、グループ〈わ〉の5年間にわたる支援活動が実って来ているのでは、と感じました。

第一保育所で昔遊び公演の司会をして、紙トンボ、折りゴマなどで遊びました。帰り際には、もうすぐ給食なのに、窓から身を乗り出して「また来てね。「バイバイ」と声をかけられ感激しました。

今回の交流活動は〈再び学んで他のために〉の一つであったでしょうか。お世話になった現地の皆様に感謝するとともに、被災地へ何度も出かけ、奮闘してこられた先輩方の仲間に入れて頂いたことにも感謝いたします。